

## トルコ リンゴの生産量が減少 レッドデリシャスは入手しにくく

[FreshPlaza 2024年8月19日](#)

トルコのリンゴの収穫が始まり気象条件は良好に見えるが、トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、間違いなく入手しにくくなる品種が1つあると言う(以下「」は同氏の発言)。「トルコのリンゴの収穫が始まった。最初の収穫はガラ品種で、これまでの気象条件は良好だ。リンゴの総生産量は、昨年と比べて最大で10%減少し、特にレッドデリシャスは入手しにくくなるだろう。」

同社は主にインドに輸出しているため、昨シーズンの物流事情は悲惨であった。ケリム氏は、スエズ運河経由の物流を維持するオプションを提供する船会社があることを喜んでいる。「弊社の主な市場はアジア諸国であり、最も出荷額の多い輸出先はインドである。紅海危機は続いているが、いくつかの新しい船会社がスエズ運河を通過する新しい選択肢を提供し始めた。運賃は少し高いが、運ぶのは傷みやすい青果物であり、低コストで低品質のリンゴを届ける訳にはいかないため、弊社ではそれらの会社を使用したいと思う。」

前回のリンゴシーズンが同氏にとってどれほど酷かったかを過小に言うことはできない。同氏は、それはこの10年間で最悪の年だったと話す。「昨年はすべての関係者にとって大惨事だった。特に我々のように大量に出荷する輸出業者にとっては、輸送時間が長くなり、輸送に関連するコストも増加したため酷かった。誰もが手に入るものは何でも出荷し始めるほどのパニックに陥り、その結果、市場に多くのリンゴが溢れたため、完全に崩壊した輸出先もあった。正直なところ、過去10年間で最悪のシーズンであった。」

ケリム氏は、同社が今シーズン注目する市場はインドだけではないと言う。「インドには非常に優秀で貴重なパートナーや友人達がおり、弊社は彼らとの長期的なビジネスを望んでいるため、主な市場は引き続きインドである。インド以外では、湾岸諸国や極東アジア諸国に輸出するので、これらの国々にも注目していく。」

インドでは天候に恵まれず収穫の遅れや被害が出ているため、今シーズンはトルコ産のリンゴの需要が増える可能性がある。「インドの悪天候は我々に影響を与えるであろうが、リンゴ産地は主にインドの北部にあり、国内の交通に課題があるため国内産の農産物は非常に少量しか南部に到達しない。我々にとっても紅海の問題により輸送時間が大幅に長くなっており、インドで我々のリンゴの魅力をできる限り高めるため、主に南部の港に焦点を当てていく。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## 南アフリカ EUの柑橘類規制をめぐるWTO紛争に突入

[FreshPlaza 2024年8月19日](#)

南アフリカは、同国の柑橘類輸出を制限する措置をめぐって、世界貿易機関(WTO)で欧州連合(EU)との紛争を開始した。この論争は、カンキツ黒星病とフォールスコドリングモスの被害を緩和するためのEUの措置を、南アフリカが「非科学的で差別的」と見なしていることから生じている。同国は、カンキツ黒星病は果実の外観にのみ影響し品質には影響しないことを示唆することにより、この真菌性病害と害虫に対処することを目的としたこれらの措置は、柑橘類の輸出に不当な罰則を科していると主張している。

南アフリカの懸念に応じて、南アフリカ産柑橘類に対するEUの輸入規制について審査するためのWTOパネルが設置された。欧州委員会のオロフ・ギル報道官は、この展開は紛争解決のための南アフリカによる正式な要請を受けたものであると発表した。7月26日に開催された紛争解決機関(DSB)の会合でこのプロセスが正式に開始され、次の段階ではパネリストの選出等を行う。

南アフリカ政府は、その立場に自信を表明しており、不利な決定に対する上訴を含めすべての結果に備えている。南アフリカ産柑橘類のEUへの大量輸出を背景とするこの紛争は、両者間の広範な貿易摩擦を浮き彫りにしている。EUの措置が認められれば南アフリカの柑橘類業界は年間20億ランド(約160億円)のコストに直面する可能性があり、この紛争の解決は世界第2位の柑橘類輸出国である同国にとって大きな経済的影響をもたらす。

出典: [businesstech.co.za](https://businesstech.co.za)